

すくも  
自主防災会だより  
第22号

田ノ浦地区の自主防災活動

【1】地区の状況

田ノ浦地区は海に近い国道沿いに本集落と、3か所の奥まった集落とで形成されています。一部の集落では防災無線の聞こえない所もありますが、市の防災マップによれば田ノ浦漁港では最大で9.8mの浸水深が想定され、地区の全体が水没することが想定されています。

また、国道から約750m入った場所には、古い農業用ため池があり、県の被害想定では満水時に地震等によって決壊すれば、下流の人家を押し流し海まで達するとのこと、これによって地区の3分の1強の家が流されるおそれがあります。さらに、ため池のある集落の85%が高齢者で、歩行に不安を抱える人が多く住んでいます。

地区では、海からの津波と奥からの洪水の両方の心配があります。



【2】避難所と避難場所

(1) 避難所

地区には有難いことに、旧田ノ浦小学校跡があり、今は小筑紫保育園と旧みなみ保育園の園舎が建っています。現在、旧みなみ保育園は消防屯所として改築中です。東日本大震災の時にはこの場所に約100名の人が避難して一夜を過ごしましたが、不安とあまりにも寒かったことを思い出します。

ここには広いグラウンドがあり、その一面に市が備蓄倉庫を設置し、田ノ浦地区、内外ノ浦地区およびすくも湾漁協が共同で機材、飲料水、食料などを備蓄しています。今後、大震災が起きたとき、小浦地区から湊地区までの5地区が共同の避難所として使用できるよう話し合っています。



(2) 避難場所

地区には、市に整備してもらった避難場所が4か所あり、このうち備蓄倉庫を市が3か所設置し、1か所は田ノ浦防災会が倉庫を設置しており、いずれも資機材、飲料水を備蓄しています。



【3】田ノ浦防災会の取り組み

毎年、市の避難訓練に参加し、県の自主防災組織リーダー研修会や小筑紫小学校の防災授業、防災会議、防災キャンプなどに参加しています。

また、防災会で作成したマップを全戸に配布するとともに、小筑紫小学校の防災マップも集会所などに掲示し、毎月の広報配布時には地区民の状況などの確認もしています。

昨年11月6日の避難訓練には各自が最寄りの各避難場所に避難し、その後旧田ノ浦小学校のグラウンドに集合しました。避難場所に通じる急な坂道を若い人が高齢者を背負って下りる場面があったり、障害のある方が民生委員の助けを借りて車椅子で参加するなど、本当に皆で協力しあっているなど嬉しく思いました。

【4】今後の課題

今回の内外ノ浦地区と合同で、長期避難に備え炊き出し訓練として、テントを設営し、薪でご飯を炊き、大鍋でカレーを作り、市と小筑紫小学校から提供のあったアルファ米も試食しました。当日は、両地区合わせて約100名の参加がありました。2地区での合同訓練は初めてでしたが、両地区の役員と何回か打ち合わせを重ねる中で、災害時にどう対処するかなどについて話し合う良い機会となりました。これからも密に協力していきたいと思えます。

田ノ浦防災会

会長 畠山 章一

